

## 地域ぐるみで子どもを守る中津小学校が交通安全で表彰されました

中津小学校が交通安全功労者「優良学校」として昨年、大阪府警と府交通安全協会から連名表彰されました。学校、PTA、地域が連携し、「あんぜんマップ」づくりなど子どもの安全を守る様々な活動が評価されました。

### 学校、PTA、地域が連携

例えば、「見守り隊」。中津地域活動協議会が主体となり、毎朝約30名の住民ボランティアが、鮮やかな緑色のウインドブレーカーを着て通学路に立ち、児童の登校を見守っています。子どもの様子がいつもと違うと感じたり、危ない事案があれば学校と情報共有します。

中津小学校では見守り隊の皆さんを招待する交流会を毎年開催。一緒にゲームを楽しんだり、児童手づくりのカードや絵などプレゼントを渡したり、児童から見守り隊へ日頃の感謝の気持ちを伝える場となっています。

### 工夫凝らしたマップ



リニューアルした飛び出し注意看板には、中津小学校の茶色の標準服を着た子どものイラスト

2019年には同小学校PTAが、子どもを見守る大人の目を増やしたいと「なかつあんぜんマップ」を作成し、校区内の全家庭と各種団体に配布しました。保護者に危険箇所をあげてもらおうアンケートを実施し、情報を整理して記した地図です。大人用と子ども用の2枚1セットで、大人用には危険な状況を示した写真やgoogleストリートビューにリンク

安全標語を低学年にも理解しやすいよう、ひらがなで掲載しました。今年は防災マップを作成、来年は「あんぜんマップ」を更新する予定です。

通学路の各所に設置している「飛び出し注意看板」も、より目立つデザインにリニューアル。子どもだけではなく、大人にも一層注意してもらえよう、中津小学校の標準服を着た子どもたちのイラストにしました。



大人用マップの2次元コードはGoogleストリートビューにリンク

### 「ご近所」感覚で温かく

同小学校PTA会長で「見守り隊」のメンバーでもある松本健さんは「昭和の時代って、ご近所全体で子どもたちを見ていましたよね、あの感じですよ」と、中津地域がめざす姿を語ります。「交通安全や見守りを通して、個人個人が点でつながるのではなく、学校・PTAと地域が面と面でくっついていけたら」。地域の事業者が参画できるような仕組みも考えているそうです。



子ども用マップの裏面には安全標語をひらがなで載せました

中津地域活動協議会会長で「見守り隊」の一員でもある花咲典之さんは、「校長先生もPTA会長さんも町会長さんも、みんな柔軟な考えを持っていて協力的です。PTAの皆さんは地域のまつりなども手伝ってくれるし、学校で何かしようと思ったら地域も応援します。新しいアイデアに対して否定的な意見や反対はほとんど出ないので、挑戦しようという士気にあふれています」と話します。新しい取り組みが立ち上がると、SNSなどで発信してくれる人も多いのだとか。

中津地域はもともと人情味あふれる土地柄。地域ぐるみの取り組みを重ね、子どもを見守る温かな環境を醸成しているのですね。



松本健さん(左)と花咲典之さん(右)

## 子どもの身近な相談相手 青少年指導員

青少年指導員は、新成人を祝う「はたちのつどい」やソフトボール・キックベースボール大会の運営などを通じ、地域で子どもの健全育成・非行防止のために活動するボランティアです。連合町会長の推薦を受けて市長から委嘱され、大阪市全体で約3,000人、北区では約300人が活躍しています。

基本的には19地域ごとの活動ですが、毎月25日には区内で一斉に「夜回り」を続けています。正式名称は「指導ルーム活動」。北区青少年指導員連絡協議会の森田謙会長が「かつては子どもたちの相談を受け付ける『指導ルーム』を開設していましたが、なかなか相談に来てくれない

北区青少年指導員連絡協議会の森田謙会長(左)と平田篤史副会長(右)



ので青少年指導員の方から外に出て行く形に変わったそうです」と名称の由来を教えてくださいました。

新型コロナウイルスの影響で実施を見送る月もありますが、夜間に公園や市街地などを回り、子どもたちを見かければ「はよ帰りや」と声をかけます。いわば地域の子どもの「定点観測」。

ところが、近年は地域を回っても青少年の姿を目にしないといいます。「子どもの問題が、外でやんちゃすることから、不登校、ネットでのいじめなど見えにくい形に変わっていると実感します」と森田さん。子どもたちの身近な相談相手として、青少年指導員に何ができるだろうかと模索が始まっているそうです。



西天満地域の「夜回り」

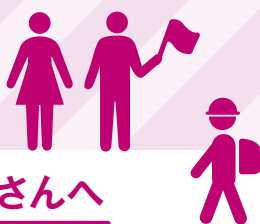
「はたちのつどい」



活動を支えるエネルギーは「子どもたちが育つ姿を見守る喜び」と、協議会の平田篤史副会長は言います。指導員同士の交流も楽しみの1つ。森田さんも平田さんも結婚を機に北区で暮らし始め、子どものソフトボール指導や青少年指導員の活動を通じて地域とのつながりも育ててきました。森田さんは「わが子かわいさから始まって、わが子の友だちがかわいくなり、地域の子も、北区の子も全体がかわいくなった」と笑います。

「はたちのつどい」は、成長を見守ってきた子どもたちの巣立ちを見届ける場。森田さんも平田さんも「地域の子どもの顔は全部知っていますよ」と口をそろえます。「子どもたちに北区で育って良かった、と感じてもらうことが我々の願いです」

## 「5つのやくそく」から始めよう ～子どもの安全を守るために～



### 保護者の方へ

「5つのやくそく」を「我が家のルール」に  
防犯対策は、日々の生活の中で、子ども目線での指導が大切です。

子どもと一緒に危険を考えよう  
お子さんと散歩でもしながら、家のまわりに危険な場所がないか、どんな場所が危険かを一緒に考えてみてください。

繰り返し教えよう  
しっかりと身につくように、繰り返し指導してください。

### 子どもを見守る皆さんへ

1人遊びをしていたら  
公園や空き地、人通りの少ない場所などで1人遊びをしている子どもを見かけた時は、声をかけて注意してください。

不審者を見かけたら  
子どもの様子をうかがう、車から子どもに話しかけるなどの不審者を見かけたら、子どもの安全を確保し、警察に連絡してください。

連れ去り? すぐに110番  
車などで子どもが連れ去られそうになっているのを見かけたら、すぐに110番通報し、近くの人に知らせてください。

## 子どもたちへ 「5つのやくそく」を守ろう

- 1 ひとりで遊びません
- 2 知らない人について行きません
- 3 連れていかれそうになったら、大声をだして助けを求め、「こども110番の家」に逃げこみます
- 4 「だれ」と「どこ」で遊ぶか、いつ帰るかを「家の人」に言ってから出かけます
- 5 お友だちが、つれていかれそうになったら、すぐに大人に知らせます

